

## スギから気候変動を分析 宇宙線増加、急激に湿潤化

太陽の磁場の変化による宇宙線の増加が、小氷河時代に急激な湿度上昇などの気候変動をもたらしていたことが、東京大宇宙線研究所や同大大気海洋研究所、名古屋大などの研究で分かった。米科学アカデミー紀要電子版に8日、発表した。



研究に使用した直径約1・1メートル、樹齢約390年のスギ(東京大提供)

1998年の台風7号で倒れ、国宝の五重塔を損傷させた奈良県・室生寺のスギ(樹齢約390年)の年輪を使い、17～18世紀の太陽活動や、周囲の気候の変化を示す成分を分析した。同様の磁場の変化は近い将来も起きる可能性があり、宇宙線が単独で気候変動に与える影響を調べる手掛かりになるとしている。

研究グループは、太陽の活動が極端に低下し、活動の指標となる黒点がほとんど現れなかった1645年からの約70年間に着目。室生寺のスギやグリーンランド、欧州各地で報告されたデータを比較して調べた。

その結果、この時期には、28年に1度の周期で磁場の活動が極端に弱まり、宇宙線の量は30～50%増えるのに合わせて各地の気候は寒冷に変化。日本では梅雨時に湿度が10～15%高くなる特異な現象が見られたという。

2010/11/09 05:02 【共同通信】